



平成25年11月26日

海上保安庁

西之島付近の新島で溶岩流を確認

11月26日午後1時50分から午後2時50分の間、羽田航空基地所属航空機(MA722 みずなぎ)により、観測を実施した。

その結果、西之島付近の新島では、2カ所の火口から東側及び南側に溶岩が流下していることを確認した。

東側へ流下している溶岩は、長さ約50メートルに達していた。

また、新島の南側では大量の水蒸気が上がっている。

新島の火口では、約4分以下の間隔をおきながら噴火しており、時々、高さ数十メートルに達する黒煙が確認された。

同乗した東京工業大学火山流体研究センター野上教授から「噴火が水蒸気爆発の段階から、マグマ噴火の段階に移ってきている。島が一瞬で吹き飛んでしまうことは、まず無いであろう。」とのコメントが得られた。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。



新島の噴火の様子(11/26 撮影)